

軟包材用インキ・ニスに的

バイオマスアクリルポリマー

大成ファイイン、度数30%超

大成ファイインケミカル(千葉県旭市、稲生豊人社長)は、バイオマスアクリルポリマーの軟包材用インキ・ニス向け提案を進める。バイオマス度数30%超の製品を開発し、2020年11月に本格上市。石油由来品と遜色ないアンチプロッキング性・希釈性を実現した。飲料用シュリンクフィルム向けをポリリウムゾーンと見込み、インキの密着性向上や強度向上用途を提案していく。

バイオマスアクリルポリマーとして初めて開発した「アクリット 1B X1001」を上市。バイオマスグラヒアインキや溶剤系ニスなどの1液用途で、バインダーとしての活用を見込む。石油由来炭素が含まない放射性炭素であるC14を多く含むモノマーを共重合

したもので、独自の重合技術でアンチプロッキング性など物性を確保。バイオマス度はカスターマイズにより最大50%までの引き上げが可能とする。環境対応包材の市場が拡大するなか、カーボンニュートラルへの寄与を

ニス用バインダーとして、ウレタン系が先行するが、競合品の少ないアクリル系バインダーとしての用途開拓を狙う。有力とみるのは、飲料用PETボトルや調味料・化粧品容器などの胴巻きとして多用されるポリスチレン(PS)製シュリンクフィルムへの印刷

・塗工用途。同用途は基材強度向上のためのコーティングが必要で、アクリル系ニスが用いられることが多い。グラヒアインキ用バインダーとして

の密着性向上効果と合わせて訴求していく。現状のバイオマスインキはバイオマス度数10%品が多くを占めるが、飲料メーカーによる度数向上の要望を見据えて材料転換に備える。

また2液用途向けにはバイオマス度数16・4%のアクリルポリオール「同6BX1002」を提案。同製品もバイオマス度を30%まで引き上げられ、壁紙や家具向けの化粧紙といった建材用コーティング剤のバインダーとしての採用を狙う。